

「消費者・消費者団体の農薬に関するリスク認識」 ～消費する立場から～



2014年9月16日

主婦連合会 副会長・環境部長

有田芳子

1. はじめに

- 消費者団体は、過去から現在に至る過程で農薬問題をどう捉えて来たかを知る。
- 体験からリスク認知の変化を振り返り、今日の問題点や課題を考える。



消費者団体の関心

- 1970年代は政府や行政への不信
農薬使用中毒事故の多発、農作物や土壌への残留性の高さなどが社会問題となる

- 1971年(昭和46年) 第10回全国消費者大会 農薬
- 1973年(昭和48年) 第12回全国消費者大会 農薬汚染
- 1976年(昭和51年) 第15回全国消費者大会 農薬と化学肥料
- 1977年(昭和52年) 第16回全国消費者大会 農薬飼料、OPP



消費者団体の関心

- 1980年代は国際的問題の視点
- 1990年代はダイオキシン、遺伝子改変生物に関する問題、リスクとベネフィットの考え方
CODEXへの関心
- 2000年代は国内の無登録農薬問題、輸入冷凍食品・輸入農作物の残留農薬問題
- 国際的な作物残留試験例数など

消費者団体・消費者の多様な考え

- 完全無農薬を目指す！
高い理念。高価、限られた作物数量。
- 完全無農薬はあり得ない☞せめて減農薬！
大衆路線。安価・大量の作物確保。
- 農薬の範囲のとらえ方？！



Q.消費者は知識不足？！

- 全ての消費者は農薬は危険と思い込んでいる？
- 全ての消費者が農薬を使用したり考える機会がない？
- 全ての消費者が購入するとき農薬を気にして購入している？
- * 家族の年齢、体調などにより有機野菜、特別栽培農産物などに関心をもつのでは？



使用と消費の問題点

- 無登録農薬を使用する生産者→今は？！
- 事故の存在→消石灰*で失明する生産者
* 過去には農薬として使用されていた
- 家庭園芸農薬や殺虫剤を安全と思っている消費者
- 販売店で売っている家庭用園芸農薬を大量に散布する消費者



合意形成の課題

- **新たな問題点**が見つかれば**不安!**
- 不安を持つ消費者、問題認識を持つ消費者に対しての**先入観!**
- **安全性**だけを強調する研究者や専門家の**リスクコミュニケーションは信頼されない?**
(誰がどのように評価している?)
- **全ての農薬を一括りにしてのリスクコミュニケーションは無理がある!**

* **環境負荷**が少なく、**安全性の高い**農薬の使用に反対する人はほとんどいない!

ご清聴有り難うございました

